# 学校だより　９月号

令和4年9月1日
横浜市立六つ川小学校
ホームページ　http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawa/

学校教育目標
**みんなでチャレンジ　六つ川の子**
**（地域を愛し、主体的に考え行動する人を育てます。）**

## 笑顔と優しき思いの継承

**校長　　妹尾　正彦**

８月２９日朝、子どもたちの元気な声が学校に返ってきました。７月２０日以来の子どもたちの姿に、何か少し大人になったような感じも受けましたが、子どもたちはどのような夏休みを過ごしたでしょうか。

夏休み期間中、交通事故や事件に巻き込まれたというような連絡もなく、こうして夏休み明けを迎えることができたことを本当に嬉しく思います。

ただ、新型コロナウイルス感染者数が全国で最多を記録する感染状況の中、本校関係者も４０名以上が夏休み期間中に感染をしました。感染拡大を防ぐために校内ではこれまで通りの感染対策を続けていかなければなりませんが、市内の感染状況を注視しながら、昨年同様に「子どもたちの学びは止めない」方向で、教育活動は続けていきたいと思っています。

保護者の皆様には、これまで同様、毎朝の健康観察と学校への報告にご協力をお願いいたします。また本人、ご家族や同居の方に体調不良（咳、喉の痛み、頭痛、発熱、腹痛、倦怠感等）が見られる場合には、お子様の登校を控えていただき、かかりつけの医療機関を受診していただきますようお願いいたします。

なお、感染者や濃厚接触者とそのご家族、対策や治療にあたる医療従事者とそのご家族に対する偏見や差別が生じないように取り組んでまいります。今回のお知らせについても、人権尊重、個人情報保護の観点から、感染者を詮索するような行動は厳に慎んでいただき、併せて、ＳＮＳ等への取扱いについて、十分にご配慮くださいますようお願いいたします。

さて、夏休み期間中に私は久しぶりに横浜スタジアムに野球観戦に行きました。中学校で長らく野球部の顧問をしていた自分にとって、プロ野球選手の「投げる、打つ、守る、走る」の１つ１つのスピード、そして技術力の高さに感激しながら観ていました。その中でも一番印象深かったのが、スタンドの端まで聞こえる、横浜 DeNA ベイスターズの山崎康晃選手の投げるときの声でした。史上最年少で通算２００セーブ達成というプロ野球記録を作った選手が、おごり高ぶることなく、１つ１つの試合の自分が投じる一球一球に闘志と気合を込めるその声と姿に本当に感動しました。

その山崎選手はマウンドを降りると常に笑顔を絶やさず、ファンやチームメイトに接することで有名です。そこには、「嫌なことがあれば、笑いなさい。ムスッとしていたら周りは近寄りがたくなる。『笑う門には福来たる』というでしょう」という昨秋に亡くなったお母さんの教えがあったようです。また、お母さんは女手一つで山崎選手とお姉さんの２人を育て、山崎選手の「プロ野球選手になりたい」という夢を叱咤激励しながら最後はいつも笑顔で後押ししてくれたそうです。球界を代表する選手に上り詰めても、「腕が腱鞘炎になるくらい、子どもたちのために一生懸命取り組んでいきたい。プロ野球で何年も活躍して、夢を与えられる選手であり続けたい」と横浜スタジアムでの試合毎に子どもたちにサイン入りグローブをプレゼントし続ける謙虚で優しい姿勢もまた、お母さんの人柄から受け継がれたのではないでしょうか。

私たち六つ川小学校職員一同も、様々な機会を通して、子どもたちに笑顔と優しい思いを継承していけるよう、頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。